



月刊 動力車千葉

さらに団結固め闘おう!

鴨川支部第二回定期大会
JR総連解体へ、支部一丸! (11/28)

十一月二十八日、勝浦市・民宿「神田」において、本部から中野委員長、田中書記長出席のもとに、鴨川支部第二回定期大会が盛大に開催された。

【動力千葉の闘いの一翼を担いきった】

大会は、大藤副支部長の開会のあいさつに始まり、議長に大野代議員を選出したあと、支部を代表して照岡支部長の挨拶を受けた。照岡支部長は、「我々は、昨年の今日、千葉市に於いて二月ダイ改反対・勝浦運転区廃止反対のストライキ総決起集会を開催し、そのまま七十二時間ストライキを決行した。このストライキの中でJR総連の職場に乗り込む決意を固めて鴨川支部を結成した。以来一年、勝浦支部時代よりも組織人員は少なくなつたが、動力千葉の闘いの一翼を担い切った。この間の組合員の協力に感謝する。今、分割・民営化一〇年を迎え、更に団結を固め動力千葉の一員として全力をあげて闘おう」と決意を明らかにし、組合員のさらなる協力を呼び掛けた。

続いて、本部を代表して中野委員長は、昨年の勝浦運転区廃止攻撃は、単に勝浦支部組合員に対する攻撃に止まらず、動力千葉の組織を根底から破壊する攻撃としてあつたこと、これを打ち破り、通年ストライキ体制

を築く中で闘いを前進させてきたことを明らかにしつつ、この一年間の闘いの総括と、当面する情勢と闘う方針を鮮明に提起した。

【水野市議、中村町議も連帯のあいさつ】

この後、鴨川支部組合員である水野勝浦市議、中村御宿町議の連帯の挨拶の後、執行部から経過報告、決算報告、運動方針案、予算案の提起があり、討論の末、これらを満場一致で承認し、新役員を選出して成功裡に終了した。その後、勤務が終了した組合員が合流し、交流会が盛大に開催された。

◎96年度新役員体制◎

役職	氏名	年令
支部長	照岡 清一	四七
副 "	関 登喜雄	四六
書記長	大藤 守紀	四五
執行委員	庄司 暁男 奈良輪 孝 吉野 六郎	五一 四七 四四

勝浦地労委

とき 12月4日 10時
ところ 千葉地労委

いつでもスト打つ決意を

京葉支部第二回大会を開催 (11/29)

第九回京葉支部定期大会が、二月ダイ改を目前にした十一月二十九日、千葉市・なのはな倶楽部において開催された。

【恒常的スト体制堅持し最前線で闘いぬく!】

大会は、議長に加田代議員を選出したのち、冒頭あいさつに立った安西支部長は、「二月ダイ改をめぐる状況は、食事時間の問題など改善の意図が見えてきていない。われわれは、今大会で改めて恒常的スト体制の堅持を確認し、いつでもストを打つという決意を固めよう」と力強く訴えた。

続いて、来賓あいさつとして中野委員長より、①一〇年間の「JR結託体制」にひずみ・矛盾が次々と顕れいている事実、②原則的な解雇撤回・清算事業団闘争の貫徹、③十一・一〇労働者集会の成功を軸に、橋本政権打倒の闘いを構築し、④二月ダイ改を期して、恒常的スト体制を堅持し、安全運転闘争に突入する、⑤JR総連を解体しよう、と鮮明に訴えられた。大会は、その後、一般経過報告、九六年度方針案、予算案まで一括提起し、質疑応答に入った。

【安全運転闘争を支部全体で貫徹しよう】

①安全運転闘争への当局の介入
質疑で出た主な意見は、

役職	氏名	年令
支部長	安西 信一	四七
副 "	中村 正巳	四八
書記長	石川 義雄	四六
執行委員	伊藤 詔一 鈴木 文男 加藤 幸男 外山 義章 青山 浩 市原 昭 田辺 敏男 中村 康幸	四五 四四 四三 四二 四一 四〇
特別執行委員	高橋 行夫 加田 嘉彦 島田 喜彦	四五 四四 四二
会計監査	大川 孝夫 上 恵二	四五 三四

が不法行為になるので、本部支部の連絡体制の強化を、②ダイ改移行後の問題点を、実際に乗務して集中しよう、③JR総連の国労解体方針について、職場状況などを把握していくことが重要だ、④作業標準を「作業案内」として、はっきり提示しないことは問題がある、等々が出され、正念場を迎えた国鉄決戦に決起する決意が固められた。続いて、安西支部長を再選し、九六年度支部役員体制が確立された。
京葉支部は、「JR結託体制」の千葉支社でのモデル職場で、着実に成長している。疾風怒濤の九七年闘争へ、全組合員は突き進もう!